

群馬県に居住する外国人が抱える諸問題

—憲法学・経済学・哲学・医療情報学等から学際的に考える

藤井正希

群馬県は、伊勢崎市、太田市、大泉町、前橋市はじめ、外国人が多く住む街が非常に多い。今後の群馬県の健全な成長・発展のためには、これら外国人と日本人とがお互いの文化を尊重し合いながら、連帯して共生していかなければならない。そのためには、群馬県に住む外国人の現状を把握し、その抱える問題を明らかにするとともに、その原因を探求し、対策を講じるという総合的な研究が必要不可欠となる。それゆえ、雇用・経済・生存・教育・医療の各観点からその課題に取り組むべく、日本科学者会議研究助成を得て、群馬支部のメンバーによって本研究が開始された。そこで、研究代表は群馬支部の幹事の一人である藤井が担当している。

本研究メンバーの専門は、永田瞬が労務管理論、山田博文・中村宗之が経済学、藤井正希が憲法学、小谷英生が教育哲学、青木武生が解剖学であるが、各自がみずからの専門を活かした研究を分担する。すなわち、永田は雇用問題、山田・中村は経済問題、藤井は人権問題、小谷は教育問題、青木は医療問題を担当する。具体的には、永田は群馬県の製造現場における間接雇用の分析、山田・中村は外国人が群馬県のマクロ経済に及ぼす影響、藤井は群馬県居住の外国人に対する社会保障の現状と課題、小谷は教育現場において外国人が抱える問題、青木はコロナウイルス禍での医療へのアクセスと関係する情報共有の問題点を最終的な主要研究課題とする。

本共同研究の一環として、これまで開催された公開セミナーは、以下のとおりである。

① 2020年7月15日、演題：「群馬県に居住する外国人が抱える諸問題」、講師：藤井正希（群馬大学）、② 2020年10月21日、演題：「移民の基礎知識を学ぶ—群馬における受け入れと統合の理解に向けて」、講師：中村宗之（立正大学）、③ 2021年1月28日、演題：「群馬県内の外国人労働者の現状と課題」、講師：マコヴェツ・アニタ（スロベニア出身、群馬大学大学院修了）、④ 2021年10月28日、演題：「群馬県における多文化共生・共創社会の実現に向けて」、講師：西舘崇（共愛学園前橋国際大学）、⑤ 2022年10月5日、演題：「労働力不足と外国人労働者一技能実習生を中心として」、講師：永田瞬（高崎経済大学）。コロナウイルス禍のため、いずれもオンライン開催であったが、学生や一般市民も参加し、有意義な研究会とすることができた。

本特集は、この共同研究の現時点での研究成果として組まれたものである。各研究者が本研究を行っていくなかで、新たに持った問題意識について、検討・考察を加えている。コロナウイルス禍のため、フィールドワークやアンケート調査等を十分に行うことができず、いまだ研究は未完成であることは自覚しているが、それなりの学術的成果は得られたものと自負している。今後は、さらなる研究成果を得るべく、学問的精進を継続していきたいと考える。

（ふじい・まさき：群馬大学、憲法学）